

評価の概要

1. 新規研究課題の事前評価

(1) 「関東地方周辺における地殻変動特性に関する研究」

干渉 SAR を用いて地殻変動を面的に精度よく捉えることや、1 月半程度の間隔で地殻変動をモニターできる可能性があること等から、研究の意義が大変大きいと考える。但し、研究を進めるにあたってはより目的を明確にしながら進めることが必要である。

(2) 「緊急防災情報としての震源断層即時推定手法の開発に関する研究」

研究の目的がはっきりしており、手法がほぼ確立されつつあるということから、早期に実用的な段階まで達成できるような形で研究が進められることを希望する。また、将来は地震情報等を用いず、地殻変動の情報のみから成果を得られる方向を目指すべきである。

(3) 「SAR 衛星の位置決定の高精度化を通じた地盤変動抽出の高度化に関する研究」

衛星軌道を高精度に推定することは、干渉 SAR による地盤変動抽出を進める上で必要不可欠な研究である。3 年間の研究期間の早い段階で位置決定の高精度化を達成し、多くの事例に適用・検証して早期に実用化を果たすことが求められる。

(4) 「高密度地形データを用いた斜面崩壊予測のための大縮尺地形分類手法の開発」

国土の防災を考える上で崩壊予測等を 2500 分の 1 レベルで行うことは、今後ともますます必要になることから研究を進めるべきである。但し、ノイズを正しい情報と誤ることがないように、利用目的と必要精度を適切に判断する注意が必要である。

〈全体として〉

・今回の提案課題はいずれも防災を目的としたものであるが、国土地理院として防災に対してどのような枠組みで対処しているのかを示し、各々の研究課題がその中のどの部分を担っているのかを明確にすることが必要である。